

**製品名: GTPBP2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11847**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	GTPBP2
別名	GTPBP2; GTP-binding protein 2
遺伝子 ID	54676.0
SwissProt ID	Q9BX10
免疫原	抗血清はヒト GTPBP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

**背景**

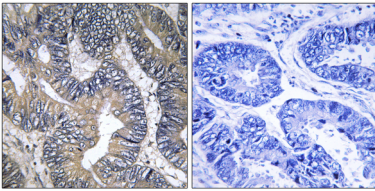
GTP 結合タンパク質 (G タンパク質) は、GTP または GDP に結合できるスーパーファミリーを構成します。G タンパク質は GTP に結合することで活性化され、GTP を GDP に加水分解することで不活性化されます。この一般的なメカニズムにより、G タンパク質は

幅広い生物学的活性を発揮することができます。[OMIM 提供、2003年1月],誘導: ヒト単球細胞株 THP-1 において、IFN- $\gamma$  によってアップレギュレーションされます。類似性: GTPBP1 GTP 結合タンパク質ファミリーに属します。組織特異性: 主に胸腺、脾臓、精巣で発現します。脳、肺、腎臓、卵巣でも低レベルで発現します。、

## 研究分野

-

## 画像データ



GTPBP2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。